



# 夏に多い子どもの感染症



夏に流行する感染症には、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)、流行性角結膜炎(はやり目)などがあります。**特に5歳までの子どもがかかることの多い感染力の強い感染症です。**

## ➡ 感染経路は

患者の咳やくしゃみなどのしぶき(飛沫)を吸い込むことによる**飛沫感染**、鼻水、水疱、便、目やにや涙の中に含まれるウイルスが、直接または、ドアノブや手すり、ティッシュペーパー、タオル、洗面器などを介して口や鼻の中に運ばれることによる**接触感染**、便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること**経口(糞口)感染**などがあります。

症状がなくなったあとも約2~4週間以上にわたってウイルスが排出されるものが多いといわれています。咽頭結膜熱(プール熱)・流行性角結膜炎(はやり目)は、プールでも感染しますが、近年は塩素濃度の徹底管理等によりプールの水での感染は稀と考えられています。

## ➡ 予防するには

👉流水と石鹸による**こまめな手洗い**を習慣づけましょう。**手洗いは多くの感染症に共通する重要な予防方法です。**

👉普段からトイレの後、おむつ交換の後、鼻水をとった後などに、しっかり手を洗いましょう。

👉子どもが理解できる範囲で**咳エチケット**\*を心掛けましょう

\*咳があるときはマスクをつける。人に向けて咳やくしゃみをしない。

咳やくしゃみの時はティッシュなどで口や鼻をおさえる。など

👉**タオルの共用を避け**ましょう。プール前後はシャワーを浴び、目をしっかり洗い、うがいをしましょう。

★5歳以上のお子さんや大人の人も感染することがあるので注意してね。



|        | ヘルパンギーナ   | 手足口病                                      | 咽頭結膜熱(プール熱)                                   | 流行性角結膜炎(はやり目)  |
|--------|---|---|---|--|
| 主な症状   | 38~40℃の発熱と同時にのどが痛む。食欲不振、全身倦怠感、頭痛、嘔吐、四肢痛。口の中に1~5mmほどの小さな水疱   | 38℃以下の発熱、口の中、手のひら、指、足の裏などに2~3mmの水疱性発疹     | 38℃~39℃の発熱、のどの炎症・痛み、眼の充血・痛み、目やになど、頭痛、腹痛、下痢を伴う | 結膜の充血、まぶたの浮腫、目やに、涙、眼痛、耳の前のリンパ節の腫れや痛み。高い熱はなく、のどの赤みも強くない |
| 原因ウイルス | エンテロウイルス(コクサッキーウイルスやエコーウイルスなど)  | エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA6, A16, エンテロウイルス71など) | アデノウイルス3型、7型など                                | アデノウイルス8型など  |
| 治療     | ほとんどの場合、特別な治療は必要がなく対処療法が中心となります。まれに髄膜炎や脳炎、心筋炎を合併することがあります   |   | 特別な治療法はありませんので、対症療法が中心になります                   | 対症療法として、抗炎症剤の点眼を行います。抗菌剤の点眼を行うこともあります                  |
| その他    | 症状が典型的ではない場合もあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状がある、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の言動がみられるなどの症状が現れた場合には、すぐに医療機関を受診しましょう |   |   |  |